

平成 22 年 4 月 20 日現在

研究種目：基盤研究(B)  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19320009  
研究課題名（和文） リグヴェーダ翻訳研究

研究課題名（英文） Rigveda: research and translation

研究代表者

後藤 敏文 (GOTŌ TOSHIFUMI)  
東北大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号：40215497

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学 ・ 印度哲学・仏教学

キーワード：インド学，印欧語比較言語学，宗教，神話，ヴェーダ，リグヴェーダ，讃歌，祭式

1. 研究計画の概要

本研究はインド最古の文献である『リグヴェーダ』（B.C. 1200 年頃編集，以下 RV と略）の全訳を目的とする。他の共訳者の協力を得ながらヴィッツェル（ハーヴァード大学）と共に翻訳，編集を行う。当初 4 年間で RV 全 10 巻をドイツ語に翻訳し，解説，注，語彙集を付して出版する予定であった。本計画はこの研究全体の中，申請者の担当分遂行についての研究助成を受けるものである。

2. 研究の進捗状況

(1) RV の学術的翻訳は，今もって 1920 年代のゲルトナーによるドイツ語全訳に代表される。その後，特に印欧語比較言語学における進展には目覚ましいものがあり，他のインド・ヨーロッパ語諸文献の解明と支え合いながら，文法事項のより精密な確定を可能にし，語彙，生活実態の解明に至るまで広く成果が積み重ねられてきた。それらの成果を取り入れ，隣接諸分野をはじめ，広く一般に利用できる形で新たな翻訳と注解を提供すべく計画が立てられた。出版は計画より遅れてはいるが，研究対象自体を客観的に見れば，かなりの早さで進捗していると言える。その質についても，既出版分について大きな反響を得ている。

(2) 初年度(2007)は順調に進み，2007 年 9 月に第 1 巻 (RV 1-2) が出版された。計 4 名 (Witzel, Dōyama, Gotō, Ježić) による出版の中，研究代表者は翻訳注解全体の約半分と語彙集全体とを担当した。2008 年度は RV 4 を翻訳注解し，第 2 巻 (RV 3-5) として出

版するための原稿を計画通り仕上げたが，出版社の事情（移転と代表者の交代）と共訳者 1 名の病気による交代（Dōyama から Scarlata へ）とが重なり，出版自体は遅れている。これに伴い，2009 年度は上記 3-5 巻に関わる原稿の見直しと，第 3 巻 (RV 6-8) のための担当分 RV 7 の翻訳研究を行った。2010 年度は，第 2 巻の校正，出版，第 3 巻用最終原稿の完成に向けての作業を行う。今後は，研究代表者が出版計画全体についてより大きな役割を負うこととなり，全体の質的向上と先行部分の改良にも労力を割く予定である。

3. 現在までの達成度

③ やや遅れている。

(理由)

(1) 本来であれば，既に第 3 巻 (RV 1-2, 3-5, 6-8) が出版される予定であったが，出版自体は第 1 巻がなされたのみで，第 2 巻は出版社に回ったままである。共訳者の交代や出版社の事情があったとしても，今から思うと，研究計画自体に無理があった点は認めざるを得ない。顧みるに，翻訳研究全体の中でこれまでに達成された成果は，量からいっても通常予定される以上の限界に近い早さでなされたものであり，質的に見れば新たな水準を拓くものである。当初の過度の意気込みは必要であったように思われる。

(2) リグヴェーダ全体を翻訳するというような企画は通常なされることは稀であり，研究の進展とともに深化がもたらされ，計画が見

直されることも避けられない。本研究代表者は、この方面でなされるべき今後の研究の基盤を作っておく必要を感じ、最近「古インドアーリヤ語歴史文法」(正確な書名は: Old-Indo-Aryan morphology and its Indo-Iranian background)をも作成した。オーストリア学士院から近く出版の予定である。

(3) 要するに、研究計画には全力を挙げて取り組んでおり、全体として望まれるような成果を効率よく挙げているものと信ずる。

#### 4. 今後の研究の推進方策

リグヴェーダ翻訳研究全体により指導力を発揮し、リグヴェーダ全訳を効率よく進めたい。本年中には第2巻(RV 3-5)が出版される見込みである。第3巻(RV 6-8)は本年度中に原稿が完成し、出版は2011年になる見通しである。助成が終了した後もこの基盤に立って研究を進め、2013年度中には全ての計画を終えたい。その際、同時、または一年後に、RV 翻訳・注解の全体に亘っての改良と語彙集、宗教、生活、言語の概説も出版できる見通しである。研究代表者自身の計画の進行も『リグヴェーダ』ドイツ語全訳の進み具合と関連するので、これまで通り自分の担当分を進めると同時に、より頻繁に他の共訳者とも連絡を取り合い、研究計画全般を管理すべく推進に努めたい。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 21 件)

査読付雑誌日本語 3; 論文集(査読無)への招待ドイツ語 3, 英語 1, 日本語 3; 報告書講演記録日本語 2, 一般書への寄稿日本語 1, 商業雑誌への論文寄稿日本語 8。

① Toshifumi Gotō, “*Aśvin-* and *Násatya-* in the Rigveda and their Prehistoric Background”, *Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia*, edited by Toshiki Osada, New Delhi (Manohar) 2009, p.199-226.

[学会発表] (計 5 件)

中招待発表 4 件

① Toshifumi Gotō, *Vedische Befunde zur Einwanderung der Āryas*. 印欧語学会 (Indogermanische Gesellschaft) 研究学会 - インド・ヨーロッパ語族の拡大。言語学, 考古学, 遺伝学からの諸仮説 -, 2009年9月25日 ヴェルツブルク大学

② Toshifumi Gotō, *The Rigveda Dictionary from the today's viewpoint of the research*. グラースマン生誕 200 年記念学会, 2009年9月17日 ポツダム大学・スチェチン大学

③ Toshifumi Gotō, *Grammatical irregularities in the Rigveda, Book I*. 第14回国際サンスクリット学会, ヴェーダ部会, 2009年9月2日 京都大学

[図書] (計 1 件)

① M. Witzel, T. Gotō, E. Dōyama, M. Ježić: *Rig-Veda. Das heilige Wissen. Erster bis zweiter Liederkreis*. 889 頁. Frankfurt a.M. (Verlag der Weltreligionen), 2007 年 9 月

[その他]

<http://www.sal.tohoku.ac.jp/indology> に成果の一部を PDF で収録。